

第5学年 社会科学学習指導案

1組 計25人（男子13人 女子12人）

指導者 川原園 達 司

1 小単元 工業生産と貿易

2 小単元の目標

工業生産を支える貿易や運輸の働きに関心を持ち、統計資料や地図などの具体的な資料から必要な情報を集め、読み取ることを通して、我が国の工業生産を支える貿易や運輸の働きや変化について調べたり、これからの貿易のあり方について自分の考えを説明したりすることができる。

3 小単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
工業生産を支える運輸や貿易の働きに関心を持ち、意欲的に調べたり、貿易や運輸の発展について考えたりしようとしている。	工業生産を支える貿易や運輸の働きについて学習問題や予想、学習計画を立てたり、貿易や運輸の果たす役割や、これからの貿易について自分の考えを説明したりしている。	統計資料や地図、写真などの具体的な資料から必要な情報を集めて読み取ったり、これからの貿易について考えたことを分かりやすくまとめたりしている。	貿易や運輸の働きが工業生産を支えていることや我が国と外国との間で均衡のとれた貿易が大切であることを理解している。

4 小単元について

(1) 小単元の位置とねらい

子どもたちはこれまでに、身の回りには様々な工業製品があり、それらが国民の生活を支える重要な役割を果たしていることを理解している。具体的な追究活動の対象としては、自動車の生産について調べる活動を通して、生産者は消費者のニーズに合わせて、より効率的に、より正確で安全に生産するための工夫や努力を続けていることを理解している。また、これからの自動車づくりには「人にやさしい」という視点が必要となり、ハイブリッドカーの開発やリサイクル可能な部品の開発といった環境配慮型の自動車やバリアフリーに配慮した自動車など新しい自動車の開発が進められていることも理解している。さらに、工業地帯（地域）の分布について調べることを通して、原料の入手と製品の出荷に有利な立地条件や運輸の働きとの関係についても理解している。

そこで、本小単元では、工業生産を支える貿易や運輸について、統計資料や地図、写真などの具体的な資料を使って、我が国の主な輸出入品目や貿易相手国、貿易の特色などについて調べることを通して、資源に乏しい我が国の工業は、原料を輸入し、優れた技術でそれを加工して外国に売ることによって発展してきたことや、現在では製品だけでなく、技術や人材の交流によって貿易相手国の産業発展に寄与しているというを理解することができるようにする。また、我が国の貿易相手国の変遷や輸出入額の推移を調べ、これからの貿易は自国、相手国双方の立場に立って持続・発展させていくことが必要だということを考えることができるようにする。

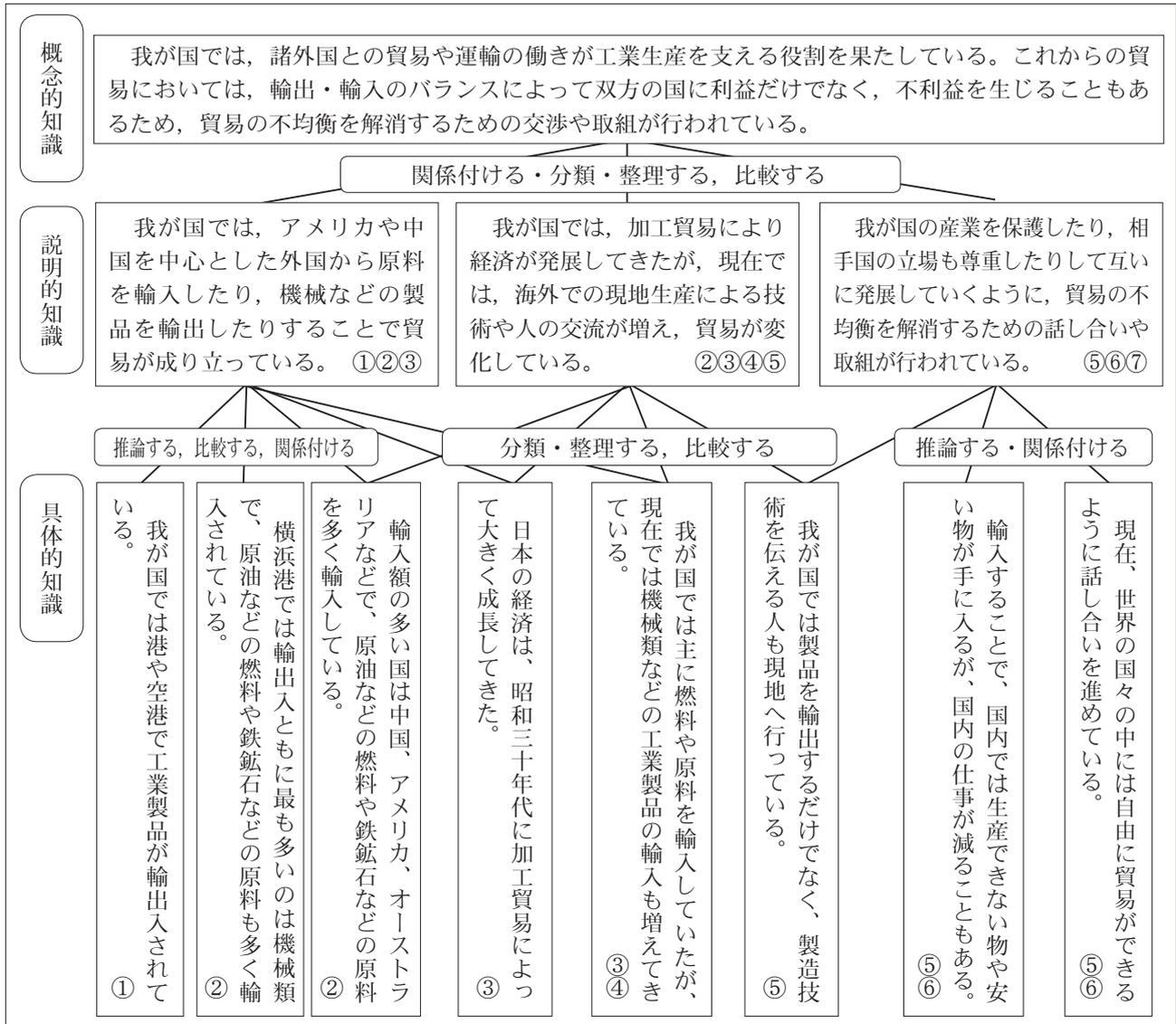
(2) 子どもの実態（調査日 平成24年9月13日 調査人数 25人）

本小単元に関する子どもの実態は以下のとおりである。

【調査1】身の回りの工業製品はどこで生産された物（made in ○○）が多いですか。（自由記述）〔複数回答〕 ○ 中国（23人） ○ インドネシア（10人） ○ ベトナム（10人） ○ 韓国（10人） ○ その他（イタリア、アメリカなど）（3人）
【調査2】外国で作られた身の回りの工業製品はどのような種類の物ですか。（自由記述）〔複数回答〕 ○ 服（24人） ○ 文具（24人） ○ 自動車（12人） ○ 電化製品（10人） ○ 食べ物（加工食品、食用油など）（4人）
【調査3】外国の工業製品が日本に多く入ってくると、どのようなことが起こりますか。（自由記述）〔複数回答〕 ○ 日本で作られた物が売れなくなる。（9人） ○ 外国のよい物が手に入る。（7人） ○ 外国の人が喜ぶ。（2人） ○ 分からない・無答（10人）

本学級では、外国から輸入される工業製品の生産国として中国やインドネシア、韓国などアジアの国々を挙げている子どもが多い。また、ほとんどの子どもが具体的な製品として服や文具など軽工業製品を挙げている。さらに、外国からの輸入が増えるという貿易不均衡によって、どのような問題が生じるかという問いに対しては「日本で作られた物が売れなくなる」という負の側面を捉えたり、「外国のよい物が手に入る」という正の側面をとらえたりしている子どもがいる一方で、「分からない」と答えている子どもも多い。

(3) 小単元の「知識の構造分析」(全7時間) ※○付きの数字は、学習する時間



5 指導にあたって

- 「つかむ」過程では、身の回りの工業製品がどこで生産されているか知るための手掛かりとして“Made in ○○”を探ることによって主な輸入先を推論したり、貿易について知りたいという意欲を喚起したりすることができるようにする。 **【推論する「思考活動」の設定】**
- 「調べる・確かめる」過程では、貿易相手国の変遷や輸出入品目の変化に関するグラフや外国で使われている日本製品の写真などの具体的な資料を提示する際、ICTの活用を図るとともに、資料と事実を関係付ける活動を設定することにより、日本の貿易の特色や、変化について考えることができるようにする。 **【関係付ける「思考活動」の設定】**
- 「まとめる」過程では、資料から読み取った事実と自分の考えを分類・整理しながら「これからの貿易は～となったらよいのではないか」という文を書く活動を設定することで、調べたことを基に、根拠を明確にした説明ができるようにする。 **【分類・整理, 関係付ける「思考活動」の設定】**

6 指導計画（全7時間）

〔 〕は重点評価項目及び評価方法 ※資料 ☆ICT活用

過程	時間	主な学習活動	子どもの意識の流れ	教師の指導・評価
つかむ	2	1 自分たちの身の回りにある工業製品が、どこで作られたものか調べる。 「工業製品のふるさと調べ」	私たちの身の回りには外国で作られた物がいろいろあるね。	○ 白地図に印を付けさせ、どの国から輸入されているか関心をもち、調べようとしている。【関心・意欲・態度：行動観察、白地図への記録】
		2 調べて分かったことを話し合い、学習問題を設定する。	どこの国で作られた物が多いのかな。 どうやって日本に入ってくるのかな。	
日本では、工業に関係のあるどのようなものが輸出入され、世界と結び付いているのだろうか。				
調べる・確かめる	4	3 学習問題について予想し、追究の柱を立てる。 ○我が国の輸出品、輸出品 ○我が国の貿易相手国 ○我が国の貿易の特色 ○我が国の貿易の課題	中国や韓国、アジアの国々から入ってくる物が多いね。 日本からは自動車を多く輸出しているよね。	○ 前時の学習を基に、「どこから、どのような物」を輸出しているのか貿易相手国や品目を予想することができるようにする。 ※ 前時までにまとめた地図 ☆ 書画カメラを活用して資料を提示する。
		4 追究の柱に沿って調べる。 (1) 主な輸出品、輸出品について調べる。 ・横浜港の輸出入品目のグラフから分かること	日本は石油や鉄鉱石などの原料を多く輸入していることが分かったぞ。	※ 横浜港の航空写真 ※ 横浜港での荷役作業の写真 ☆ 横浜港の写真を電子黒板で提示し、気付いたことを画面上に書き込むことで海を玄関口として貿易が行われていることに気付くことができるようにする。
		(2) 主な貿易相手国について調べる。 ・我が国の貿易相手国の表から分かること ・我が国の貿易相手国の変化に関する表から分かること	最大の貿易相手国はアメリカだったけれど、最近では中国の方が多くなっているね。 なぜ、中国との貿易が増えてきたのかな。	※ 主な貿易相手国、輸出入品目に関するグラフ 我が国の主な輸出入品や貿易相手国の資料から必要な情報を読み取っている。【資料活用の技能:行動観察、ワークシート】
		(3) 我が国の貿易の特色について調べる。 ・我が国の輸出入品目に関する表から分かること (4) 我が国の貿易額の変化を調べ、これからの貿易のあり方について考える。 (本時6/7) ・輸出入額の変化に関するグラフから分かること ・貿易相手国や品目の変化 ・貿易の今後の変化 ・貿易相手国との関係	日本の工業は加工貿易によって発展してきたんだね。 最近では製品だけでなく、技術や人材の交流も進んでいるんだね。 これからは、日本にとっても、相手の国にとってもプラスになる貿易が必要だね。	※ 輸出入額の推移（グラフ） ○ 輸出入の推移を推論する活動を通して貿易の特色や課題を考えることができるようにする。 我が国の貿易の変化や今後について資料から読み取った事実と関係付けながら説明している。【思考・判断・表現:行動観察、ワークシート】
まとめ・広げる	1	5 調べて分かったことを基に「貿易新聞」作りを行い、学習のまとめをする。	日本の工業や貿易の特色について分かりやすくまとめよう。	我が国の貿易の特色や外国とのつながり、課題を正しく理解している。【知識・理解：貿易新聞（作品）】
日本は外国から主に原料や燃料を輸入したり、機械や電子部品などを輸出したりして世界と結び付き、工業も発展してきている。現在も我が国と相手国との間で、お互いの立場を理解しあうための話し合いや具体的な取組が行われている。				

7 本 時 (6 / 7 時)

(1) 目 標

我が国の貿易に関するグラフや写真などの具体的な資料を読み取ることを通して、貿易の現状や貿易を通じた外国とのかかわり方について、自分なりに考え、説明することができる。 【社会的な思考・判断・表現】

- 「思考場面」：輸出入額の推移を予想する場面 「思考活動」：推論する 「材料」：輸出入額のグラフ (資料), 我が国の貿易に関する既習の知識 「視点」：どのように変化しているか
- 「思考場面」：これからの貿易のあり方について話し合う場面 「思考活動」：関係付ける, 比較する 「材料」：外国産の衣類を売っている店の写真, 自由貿易に反対している人々の写真, 取材VTR 「視点」：輸出入の変化が及ぼす影響はどんなことか (メリット・デメリット)

(2) 展 開 は教師の言葉掛け は予想される子どもの反応 ◆ は重点評価項目 ☆はICTの留意点

過程 (分)	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導・評価
<p style="text-align: center;">つかむ</p> <p style="text-align: center;">問題の把握 (7)</p>	<p>1 「日本の貿易額の移り変わり」のグラフを見て、気付いたことを話し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">日本の貿易額は、どのように変化していますか。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">輸入・輸出のどちらも年々増えています。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">輸入と輸出の差があります。</div> </div> <p>2 学習問題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100%;">輸出額や輸入額の変化は、日本や相手国にどのような影響を与えるのだろうか。</div>	<p>○ 貿易相手国や具体的な輸出入品目など、これまでに学習したことを想起することで我が国の貿易の特色を考えることができるようにする。</p> <p>☆ 我が国の貿易の移り変わりに関するグラフの線をプレゼンテーションソフトのアニメーション機能を活用して動かしながら提示することで、輸出入額の全体的な伸びや変化の様子をより具体的にとらえることができるようにする。</p> <p>○ 変化の大きい場所に着目することで、「なぜ、変化したのか」という問題意識を喚起し、変化の理由を考えることができるようにする。(推論する)</p> <p>○ 輸入が増えた場合、我が国や相手国にはどのような影響があるのか、写真資料を活用したり、これまでの学習内容、経験を想起したりして、メリット、デメリットを比較しながら考えることができるようにする。(関係付ける, 比較する)</p> <p>◆ 貿易額の変化によって我が国、相手国双方に、どのようなメリットやデメリットが生じるのか考えながら、これからの貿易のあり方について自分の考えを説明している。 【社会的な思考・判断・表現: 発言・ワークシート・ノート等の記述】</p>
<p style="text-align: center;">調べる・確かめる</p> <p style="text-align: center;">問題の追求 (30)</p>	<p>3 グラフや写真, 表などの資料から我が国の貿易の変化について調べる。</p> <p>(1) 西暦2000年から2008年までの間、貿易がどのように変化したのか予想する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">輸出は年々増えてきていると思います。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">輸入も増えてきていると思います。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">どちらも減ってきているのではないかと思います。</div> </div> <p>(2) 輸出入の変化で、どのような影響があるの考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">輸入や輸出が変化した場合、どのようなことが起こるか考えてみましょう。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">輸入が増えると外国産の安い品物が入ってくるので、消費者は助かると思います。</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">輸入が増えると、国産の製品が売れなくなるから、生産者は困るのではないかと思います。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">相手国でも、日本からの輸入品が増えることによって、同じようなことが起こるのではないかと思います。</div> </div> <p>4 これからの我が国の貿易のあり方について考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">輸出ばかりしていると相手の国の産業が衰えてしまうのではないかな。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">日本に外国産の安い製品がどんどん入ってくると日本の工業も衰えていくから輸入ばかり増えると困るな。</div> </div>	
<p style="text-align: center;">まとめる・広げる</p> <p style="text-align: center;">結果の吟味 (8)</p>	<p>5 考えたことを基に、これからの貿易や外国とのかかわり方についてまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100%;">我が国では輸入が増えると、外国から安い品物が入ってくるというプラスの面がある。しかし、国内の生産者の仕事が減るというマイナスの面もある。これは、相手国にも言えることだ。貿易はお互いの国の立場を考慮することが必要だ。</div> <p>6 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">お互いの国の立場を理解する必要があるね。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">今でもよりよい貿易を進めるための話し合いが進められているんだね。</div> </div>	<p>☆ 国際交流員への取材VTRを視聴することで、双方の利益を考えた貿易のあり方について違う立場の考えを知り、本時の学習を振り返ることができるようにする。</p> <p>○ 現在でも国同士の信頼関係を築き、よりよい貿易を進めるため話し合いが進められている事実を知らせ、今後も継続的な取組が必要だということに気付くことができるようにする。</p>

第5学年 社会科「工業生産と貿易」における評価資料（6／7）

重点評価項目

グラフや写真等の資料をから読み取ったことを基に、我が国の貿易額（輸出入額）が変化したときのメリット、デメリットを比較し、これからの貿易のあり方について自分の考えを説明している。

評価の観点

ア 輸入額、輸出額が増えた場合、我が国にはどのような影響があるか考え、今後の貿易のあり方について説明している。

イ 輸入額、輸出額が増えた場合、相手国にはどのような影響があるか考え、今後の貿易のあり方について説明している。

ウ 我が国と輸出先双方の立場に立って、輸出入の変化がそれぞれの国に及ぼす影響を考えて、今後の貿易のあり方について説明している。

評価方法：資料活用に関する行動観察，ワークシート・ノート等の記述や発言を基に評価する。

十分満足できる（A）

おおむね満足できる（B）

ア・イ・ウを満たす表現

ア・イを満たす表現

表現（記述）例

- 輸入することで、国内では作れないものや国内で作るよりも安いものが手に入る。実際に、中国産の衣料品などは安い。
しかし、輸入品ばかりに頼っていると、日本の生産者の仕事が減ってしまう。
相手国でも日本の製品が多く輸入されると国内で生産された物が売れなくなってしまう。
今後は、日本、相手国それぞれに利益が生まれるような貿易が必要ではないか。
- 貿易は、自分の国のことだけでなく、相手国の立場や考え方も十分に考えて進めなければならない。そのために、今でも日本は外国との話し合いや具体的な取組を進めている。

- 外国からの輸入品が増えると、日本で生産された物が売れなくなってしまうのではないか。（我が国の立場で、輸入が増えた場合のデメリットを説明している）
- 日本からの輸入が増えると、相手の国の工業も衰えてしまうのではないか。（我が国からの輸入が増えた場合の相手国に与えるデメリットを説明している）
- 外国からの安い品物が輸入されると、消費者は買い物がしやすくなるのではないか。（消費者の立場で輸入が増えた場合のメリットを説明している）

評価を生かした指導

〈Bの学習状況の子どもに対して〉

- 日本からの輸出が増えると相手国にはどのような影響があるのか、外国からの輸入が増えると日本の工業にはどのような影響があるのか、双方の立場におけるメリットやデメリットに着目するように助言する。
- 「これからの貿易は、日本や相手国にとって」という書き出しの文を提示し、双方の立場で貿易について考えたことを説明ができるように促す。

〈Cの学習状況の子どもに対して〉

- 「安い外国産のタオルを輸入しないようにうったえる日本の生産者たち」の写真資料を提示し、「なぜ、この人たちは輸入を増やさないように訴えているのだろう。」と発問し、輸入品が増えることによるデメリットに気付くことができるようにする。
- 「外国産の衣類を売る店」の写真資料を提示したり、身近にある外国産の商品を調べた経験を想起させたりして「外国産の製品のよさはどんなことかな。」と発問し、外国から商品を輸入するメリットを考えることができるようにする。